ご使用のしおり

《取扱説明書》

JANOME

HIGH QUALITY SEWING

目　次

安全上のご注意 2
おとり扱いについてのお願い 3
●各部の名まえ 4
●補助テーブル 5
●標準付属品 5

操作をおぼえましょう

●電源のつなぎ方 6
●速さの調節のし方 6
●フットコントローラの収納 6
●スタート・ストップボタン 7
●上下停針ボタン 7
●返し縫いレバー 7
●ドロップつまみ 7
●押え上げ 8
●糸調子の合わせ方 8
●模様選択ダイヤル 9
●送りダイヤル 9
●各模様と押えの関係 9
●下糸の準備をしましょう 10
★ボビンをとり出します 10
★ボビンに糸を巻きます 10・11
★ボビンをかまにセットします 11
●上糸の準備をしましょう 12
★上糸を掛けます 12
●糸通しの使い方 13
●下糸を引きあげるには 14
●布に適した糸や針を選ぶ目安 14

実用縫いいろいろ

●直線縫い 15
★縫いはじめ 15
★縫い方向をかえるには 15
★縫いおわりと糸の切り方 15
★針板ガイドラインの利用 15
★厚手の布端の縫いはじめ 15
●ジグザグ縫いとかがり縫い 16
★ジグザグ縫い 16
★ジグザグ縫い裁ち目かがり 16
★トリコット縫い裁ち目かがり 16
★かがり縫いステッチ 16
●くけ縫い 17
●三重縫い 17
●直線状伸縮縫い 17
●オートボタンホール 18・19
●芯入りオートボタンホール 19
●ボタンつけ 20
●ファスナーつけ 21・22

応用縫いいろいろ

●キルティング 23
●ピンタック 23
●スモッキング 23
●ファゴティング 24
●パッチワーク 24
●スカラップ 24
●アップリケ 24
●シェルタック 25
●ししゅう 25
●スーパー模様の形の整え方 26

押え・針・ランプのとりかえ方

●押えのとりかえ方 27
★押えホルダーのはずし方・つけ方 27
●針のとりかえ方 27
●ランプのとりかえ方 27

ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ 28
★かまの掃除 28
★かまの分解 28
★かまと送り歯の掃除 28
★かまの組立て 28
●ミシンの調子が悪いときの直し方 29
別売品のご紹介 30

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。 For use in japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

⚠警告 この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	⚠注意 この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

⚠	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
🚫	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
❗	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

⚠警告 感電・火災の恐れがあります。

❗ 必ず実行 一般家庭用、交流電源 100 Vでご使用ください。	必ずプラグを持って抜く 以下のような時は、電源スイッチを切り電源プラグを引き抜いてください。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・ミシン使用中に停電したとき

⚠注意 感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止 お客様自身での分解はしないでください。	必ず実行 ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。
接触禁止 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。	必ず実行 お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される時は、特に安全に注意してください。
禁止 縫製中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。	必ずプラグを持って抜く 以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。 ・針・針板・押さえ・アタッチメントを交換するとき ・上糸・下糸をセットするとき ・ランプを交換するとき(ランプが冷えてから行ってください。) ・ミシンのお手入れを行うとき
禁止 曲がった針はご使用にならないでください。	
禁止 付属の電源コードは、このミシン以外の電気製品には使用しないでください。 このミシンを使用するときは、付属の専用電源コードを使用してください。	必ずプラグを持って抜く ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 ・正常に作動しないとき ・水に濡れたとき ・落下などにより破損したとき ・異常な臭い・音がするとき ・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき
禁止 電源コードの上に、物をのせないでください。	
必ず実行 針及び押さえは、確実に固定してください。又、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。 針が押さえにあたり、けがの原因になります。	

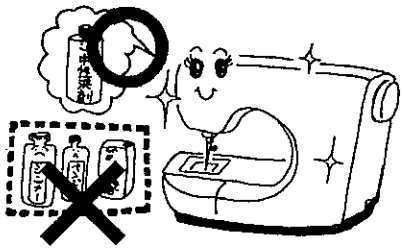
※仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

おとり扱いについてのお願い

◇ご使用の前に

① ほこりや油などで、縫う布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

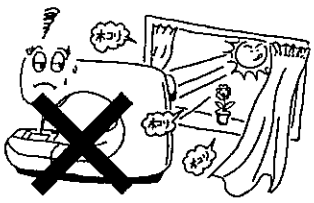


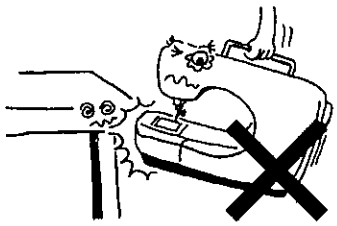
◇いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。

② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

③ 落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

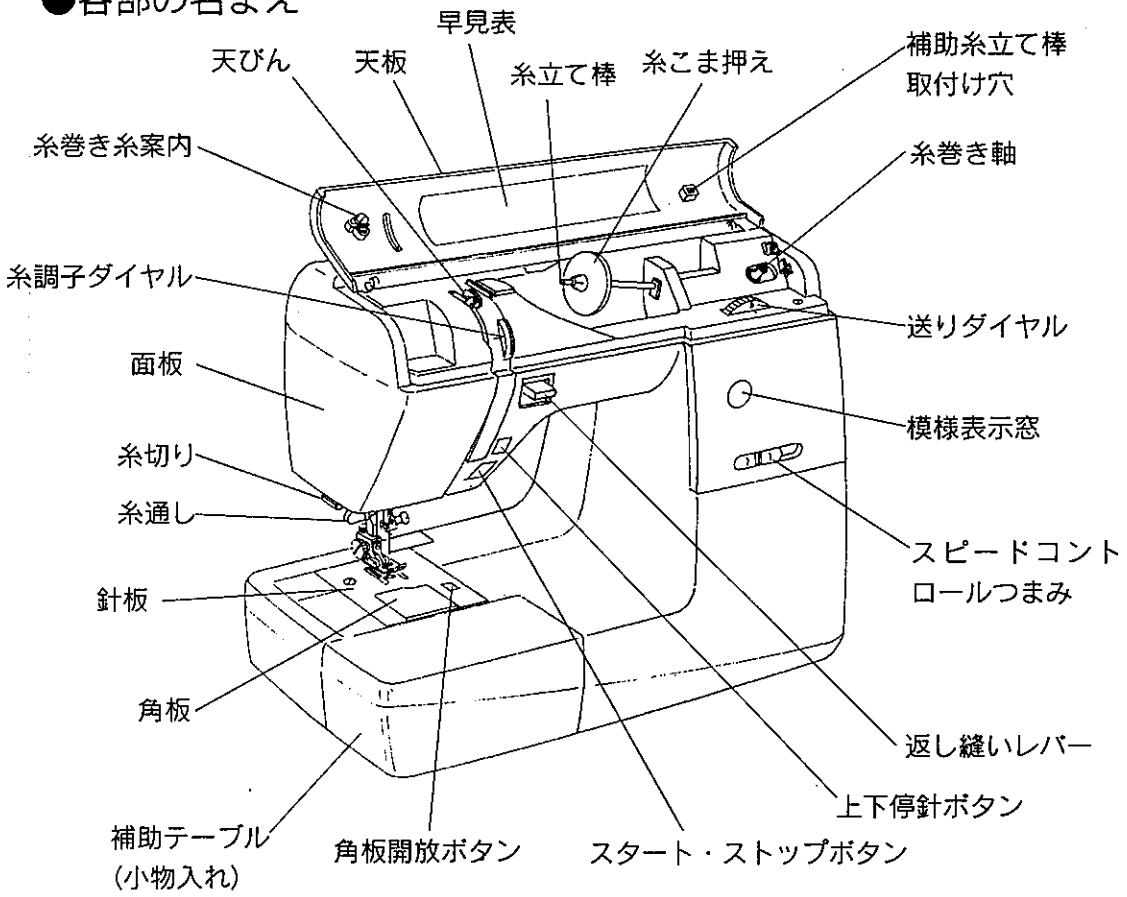


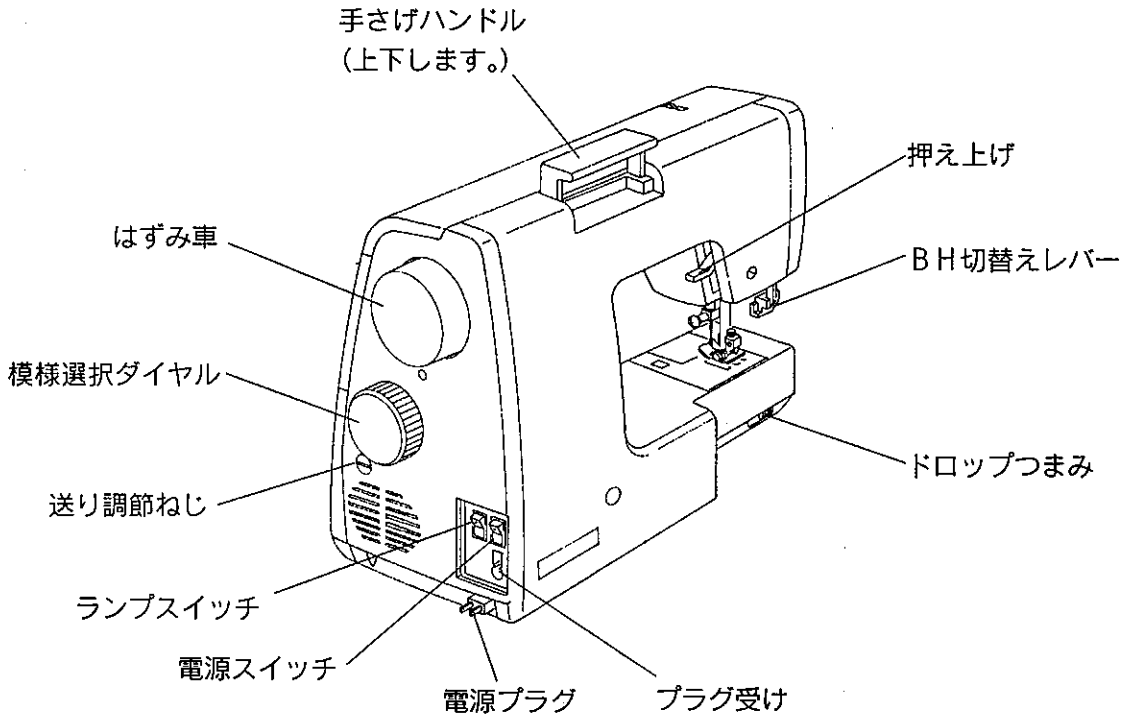


◇ 修理・調整についてのご案内

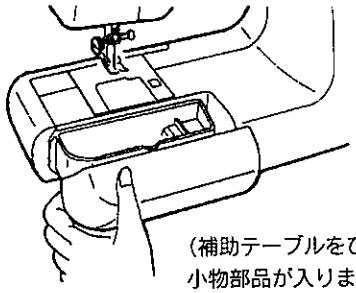
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(29ページ)により点検・調整を行ってください。

●各部の名まえ


早見表
天びん
天板
糸立て棒
糸こま押え
補助糸立て棒
取付け穴
糸巻き糸案内
糸巻き軸
糸調子ダイヤル
送りダイヤル
面板
模様表示窓
糸切り
糸通し
スピードコント
ロールつまみ
針板
角板
返し縫いレバー
上下停針ボタン
補助テーブル
(小物入れ)
角板開放ボタン
スタート・ストップボタン

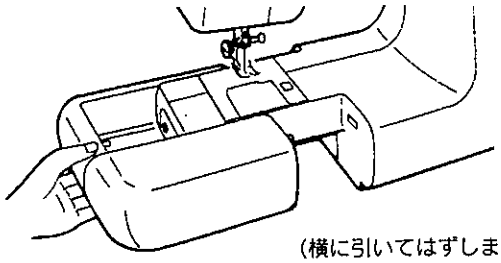

手さげハンドル
(上下します。)
押え上げ
はずみ車
BH切替えレバー
模様選択ダイヤル
ドロップつまみ
送り調節ねじ
ランプスイッチ
電源スイッチ
電源プラグ
プラグ受け

●補助テーブル



（補助テーブルをひらくと、
小物部品が入ります。）

★補助テーブルのはずしかた

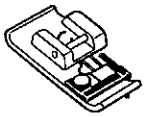


（横に引いてはずします。）

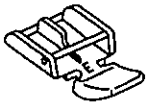
●標準付属品

（押えには、記号を表示してあります。）

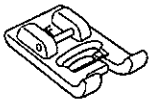
A　基本押え



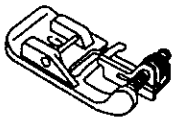
C　裁ち目かがり押え



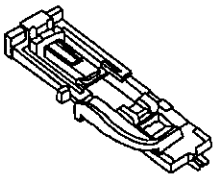
E　ファスナー押え



F　サテン押え



G　くけ縫い押え



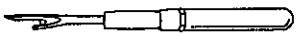
R　オートボタンホール
押え

キルター
（棒定規）

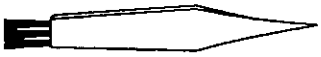
針と針ケース

ねじまわし

ボビン



目ほどき

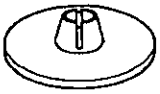


ミシンブラシ

補助糸立て棒

フエルト

糸こま押え（小）



糸こま押え（大）

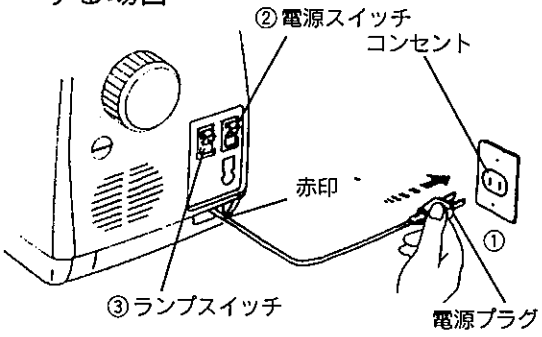
＊糸こま押え（大）はミシンの糸立て棒についています。

操作をおぼえましょう

●電源のつなき方

※フットコントローラはモデルにより別売になります。

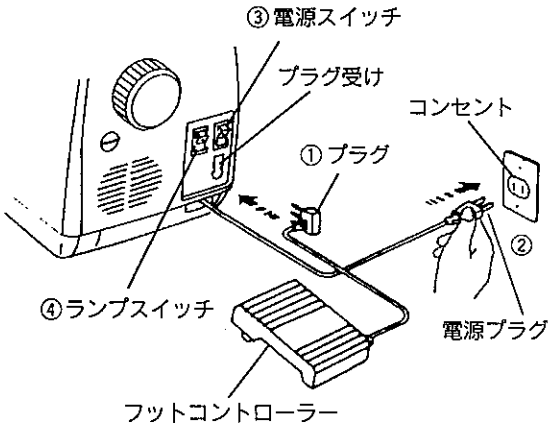
★スタート・ストップボタンを使用する場合



＊スイッチの●印は、「入」

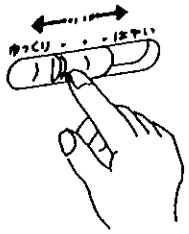
①電源スイッチを「切」にして、プラグをコンセントにさしこみます。
＊赤印以上は引き出さないでください。
②スイッチを「入」にします。
＊スイッチを入れると「ピッ」という電子音がします。
③ランプスイッチを「入」にします。

★フットコントローラを使用する場合

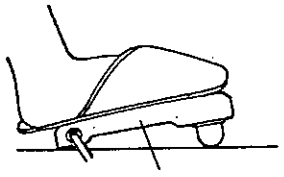


①電源スイッチを「切」にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。
②電源プラグを引き出し、コンセントにさしこみます。
③スイッチを「入」にします。
④ランプスイッチを「入」にします。

●速さの調節のし方

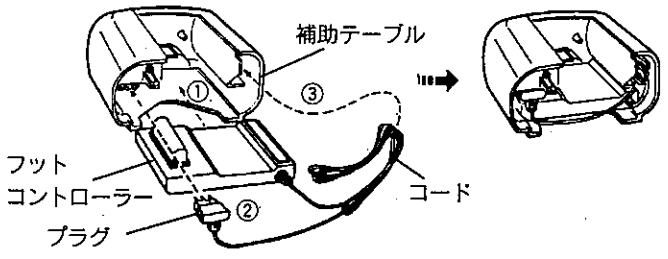


縫う速さは、自由にセットできますので、お好みの速さに、スピードコントロールつまみをセットしてください。



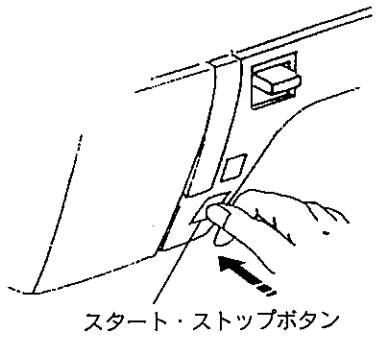
フットコントローラは、深く踏み込むほど速くなります。
＊スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてください。

●フットコントローラの収納



①フットコントローラを補助テーブルに押しながら入れます。
②プラグを補助テーブルの穴にさしこみます。
③コードを４つ折りにして、補助テーブルに収納します。

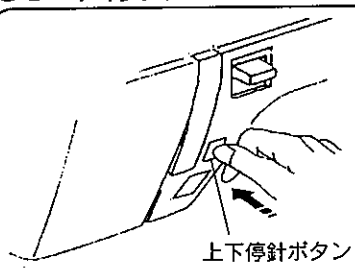
●スタート・ストップボタン



ボタンを押すと、ミシンは数針ゆっくりと縫ってからスピードコントロールつまみでセットした速さで縫いはじめます。もう一度押すと、針が上の位置で止ります。

＊下糸を巻くときは、ミシンはゆっくりスタートにならずにセットした速さで動きはじめます。

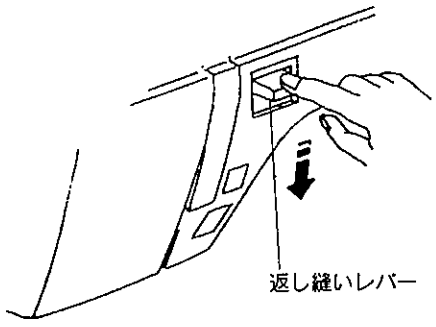
●上下停針ボタン



ミシンが止まっているとき、ボタンを押すと、針が上位置から下位置に切りかわります。

もう一度押すと、上位置に切りかわります。

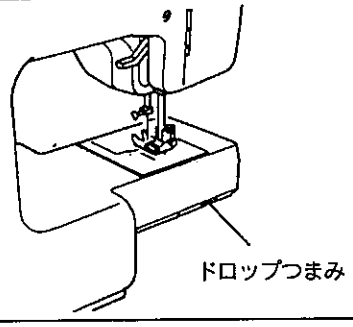
●返し縫いレバー



返し縫いレバーを押すと、ミシンは低速で返し縫いをはじめ、指をはなすと止ります。
ミシンを動かしている途中で返し縫いレバーを押すと、押している間は返し縫いをし、指をはなすと、前進縫いに戻ります。

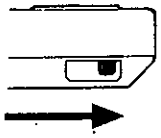
＊不用意に返し縫いレバーにふれると、ミシンが動きだしますのでご注意ください。

●ドロップつまみ

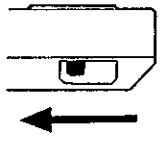


ボタンつけなどで送り歯をさげるときは、ドロップつまみを動かします。

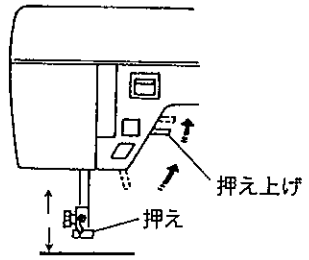
(送り歯をあげた位置)



(送り歯をさげた位置)



●押え上げ

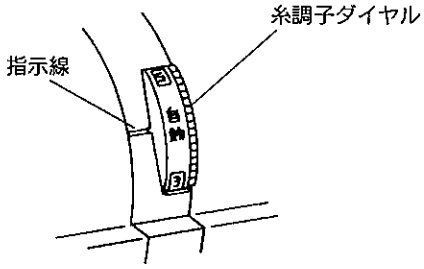


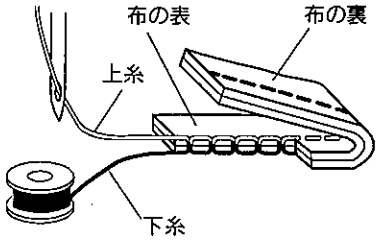
押え上げで、押えの上げ下げをします。
押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

●糸調子の合わせ方

★自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルを「自動」に合わせると、普通の縫いのときにバランスよく縫える糸調子に自動セットされます。





〈バランスのとれた糸調子〉

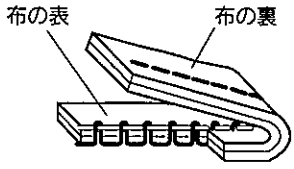
○直線縫いのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

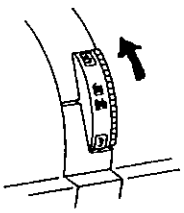
○ジグザク縫いのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときは、糸調子ダイヤルを「０～９」に合わせると、マニュアル糸調子となり、上糸と下糸のまじわる位置を自由に調節できます。

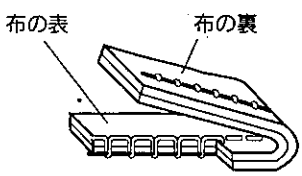
・上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせます。

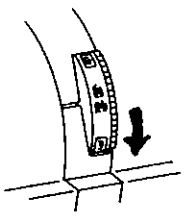




＊下糸が布の表に出ます。

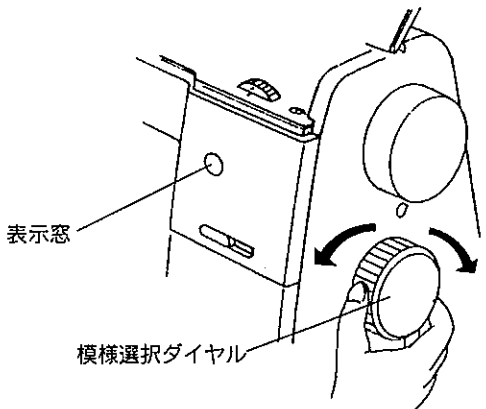
・上糸が弱すぎるとき・・・大きな目盛りに合わせます。





＊上糸が布の裏に出ます。

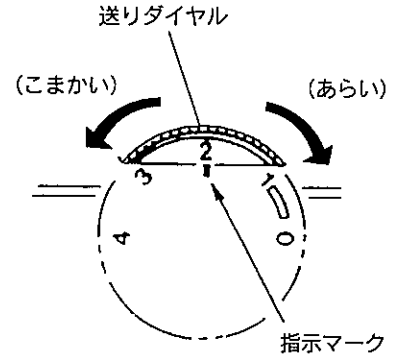
●模様選択ダイヤル



模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に表示させます。

＊模様選択ダイヤルをまわすときは、針を布からあげてください。

●送りダイヤル



送りダイヤルをまわして、指示マークに目盛りを合わせます。
目盛が大きくなると縫い目はあらくなります。

＊ ⌓ は、ボタンホールの縫い目あらさの調節範囲をしめします。

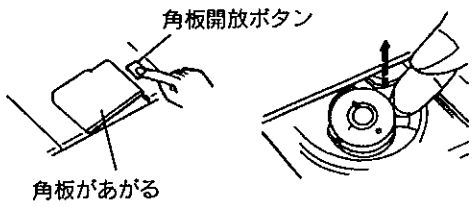
●各模様と押えの関係

模様	BH1 BH2		1 2 3					*	*	*	*
主な用途	ボタンホール	キルティングなど ファスナーつけ 直線縫い	かがり縫い・ボタンつけ アップリケ ジグザグ縫い	くけ縫い	トリコットステッチ	シェルタック	スカラップ	かがり縫い	パッチワーク ファゴティング	伸縮縫い	三重縫い
押え記号	R	A・E	A・C・F	G	A	F	F	C	A	A	A

＊印の付いた模様は、スーパー模様ですので送りダイヤルの調節は、必要ありません。

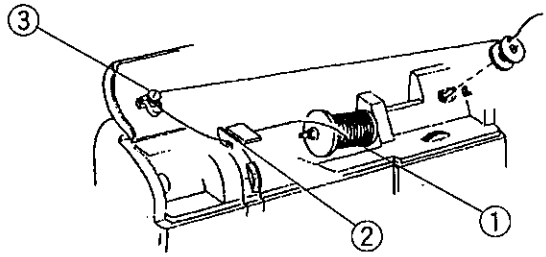
●下糸の準備をしましょう

★ボビンをとり出します



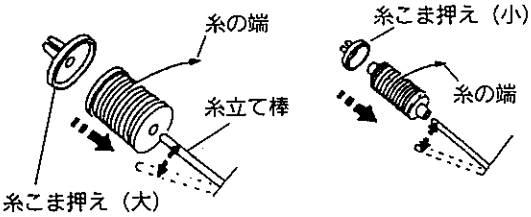
角板開放ボタンを右へずらして角板をはずし
ボビンをとり出します。

★ボビンに糸を巻きます　※糸巻き時はスピードコントロールつまみを中速からはやいの間でご使用下さい。



＊糸こま巻き量が少ないときや、
細糸こまのときには、補助糸立
て棒をご使用ください。

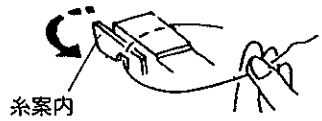
〈普通の糸こまのとき〉　〈小さい糸こまのとき〉



①糸こまをセットします。

＊糸立て棒を軽くおこし、糸の端が向こう側に出るようにして、糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまをおさえます。

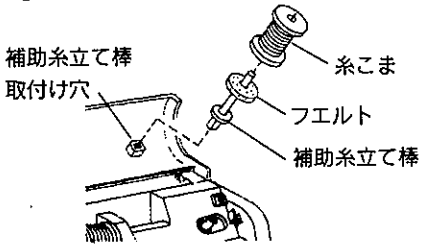
②

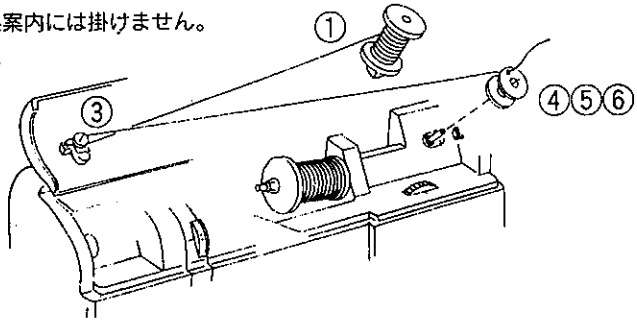


②糸案内の向こう側から掛けます。

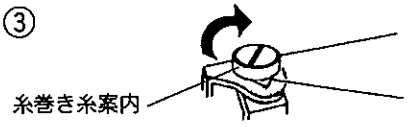
◎補助糸立て棒を使用のとき　※②の糸案内には掛けません。

①糸こまおよび補助糸立て棒のセット





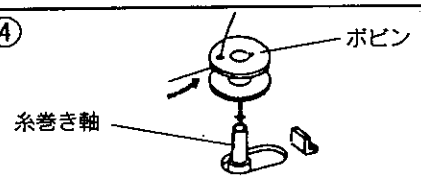
③



③糸巻き糸案内に糸を掛けます。

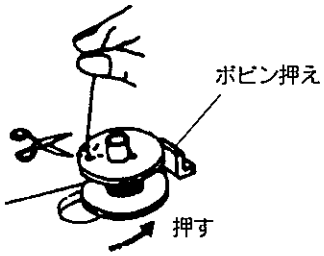
＊補助糸立て棒を使用するときには、クロスして掛けます。

④



④ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。

⑤



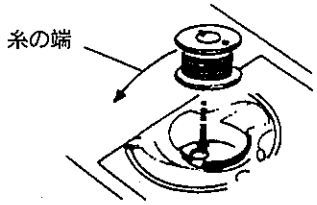
⑤ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、巻きはじめます。糸がボビンに３重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

＊糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

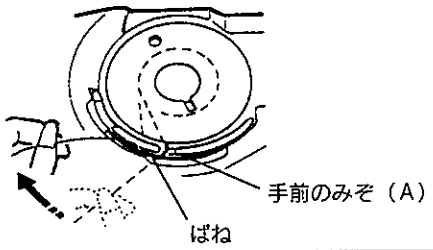
⑥

⑥再びミシンを動かし巻き終わったら、ボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりはずして糸を切ります。

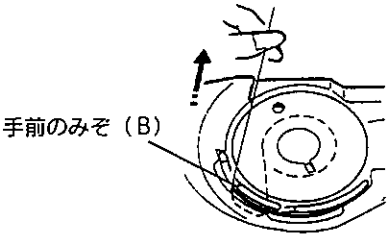
★ボビンをかまにセットします



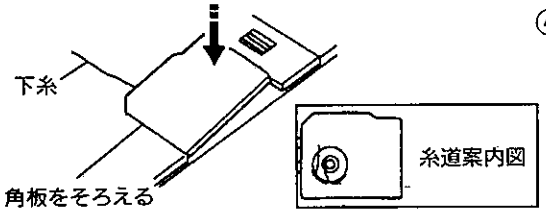
①角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンをかまに入れます。



②糸の端を引きながら手前のみぞ（A）にかけ、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、通します。



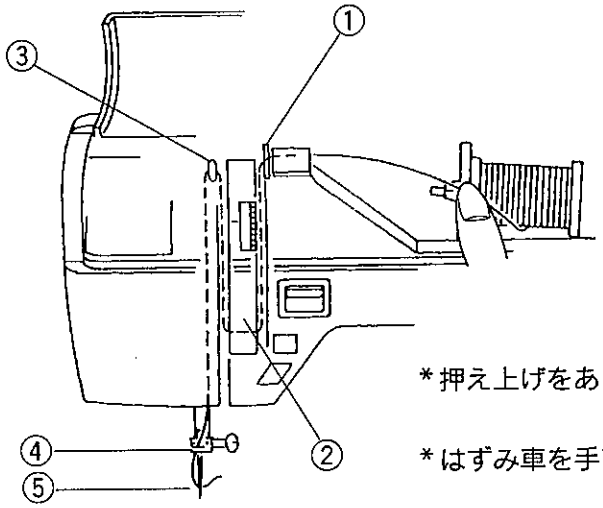
③糸を手前のみぞ（B）にかけるようにして向こう側に出します。



④下糸を１０cmくらい引き出して、角板をつけます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸を掛けます

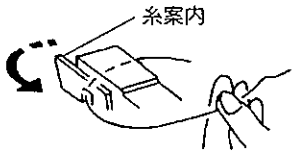


＊糸こま巻き量が少ないときや、細糸こまのときには、補助糸立て棒をご使用ください。
(補助糸立て棒の使い方は、10ページをごらんください。

＊押え上げをあげます。

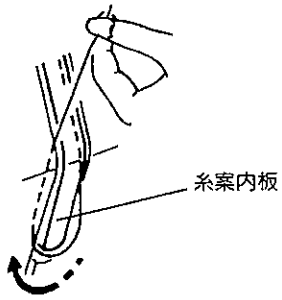
＊はずみ車を手前に回し、天びんを上部にします。

①



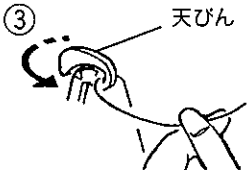
①糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手で糸を持ち糸案内の向こう側から糸案内板の右側にそって下におろします。

②



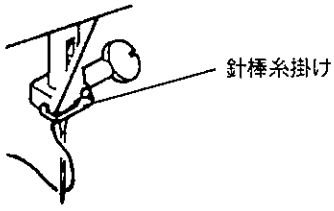
②糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。

③



③天びんへは、右から後ろを回して左へ出し、手前に引き出して、まっすぐ下におろします。

④
⑤



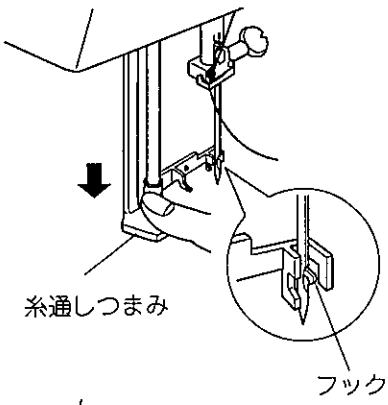
④針棒糸掛けに左から掛けます。

⑤糸通しを使って針に糸を通します。
(糸通しの使い方は、13ページをごらんください。)

●糸通しの使い方

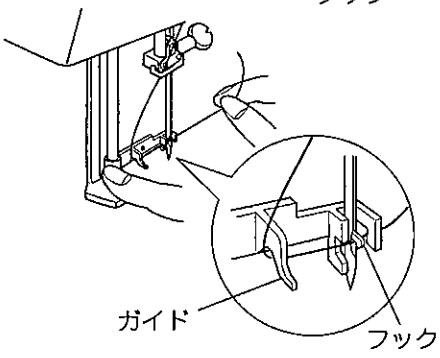
※針は、11番～16番および、ジャノメブルー針が使えます。糸は、50番～100番が使えます。
(針または糸の太さによっては、使えない場合があります。)

①



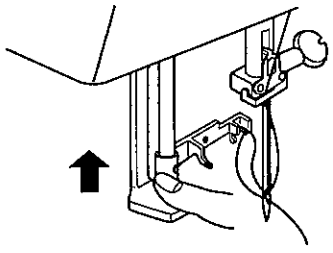
①押さえ上げをさげ、針をあげた状態で、糸通しつまみを止まるまでいっぱいにさげます。
フックが針穴に入ります。

②



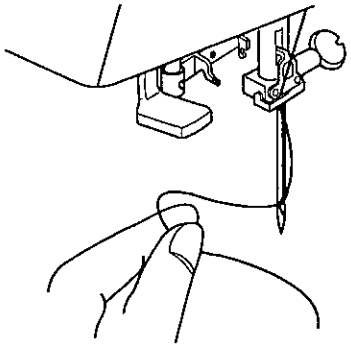
②糸を左側からガイドとフックにかけます。

③



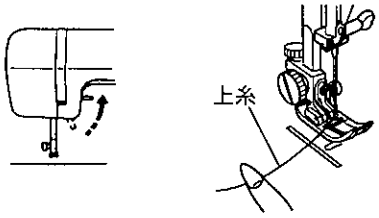
③糸の端を軽く持ったまま、糸通しつまみを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

④

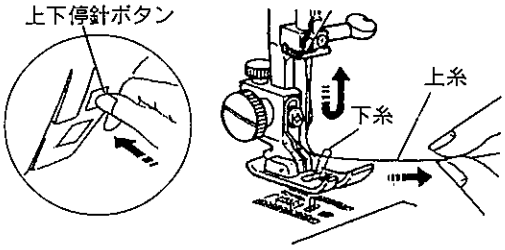


④糸の輪を糸通しから外し、針穴から端を引き出します。

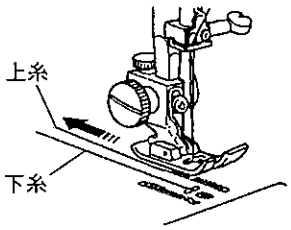
●下糸を引きあげるには



①押え上げをあげ、上糸を指で押えておきます。



②はずみ車を手前に1回転させるか、または上下停針ボタンを２度押して針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



③上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット ウール・化繊布	絹　糸　８０番～１００番 綿　糸　８０番～１００番 化繊糸　８０番～１００番	９番～１１番
普通の布	普通木綿・化繊布 薄手ジャージー 一般ウール	絹　糸　５０番 綿　糸　６０番～８０番 化繊糸　５０番～８０番	１１番～１４番
		綿　糸　５０番	１４番
厚い布	デニム ジャージー コート地 キルティング	絹　糸　５０番 綿　糸　４０番～５０番 化繊糸　４０番～５０番	１４番～１６番
		絹　糸　３０番 綿　糸　３０番	１６番

＊一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試し縫いをして確かめてください。

＊原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

＊伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目のとびやすい布地などには、ブルー針を使用すると効果があります。（市販SP針も同様の効果があります。）

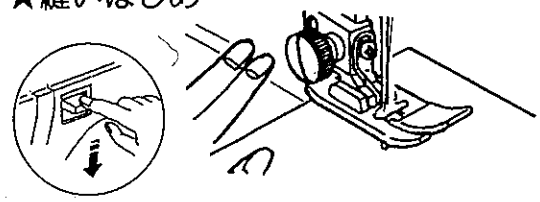
実用縫いいろいろ

＊縫いのときは、天板を開けてください。

●直線縫い

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル
	または	A基本押え	1．5～4

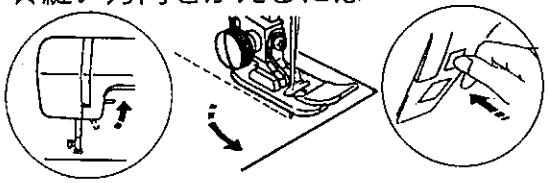
★縫いはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

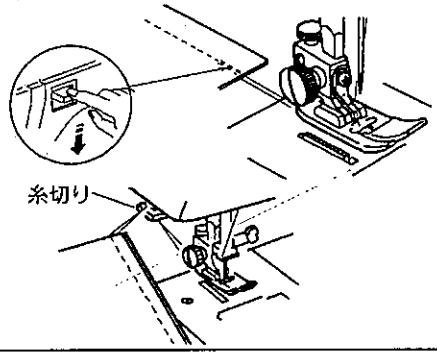
＊縫いはじめのほつれ止めは、返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。

★縫い方向をかえるには



ミシンを止め、はずみ車を手前に回すか、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押え上げをあげ布をまわして縫い方向をかえます。

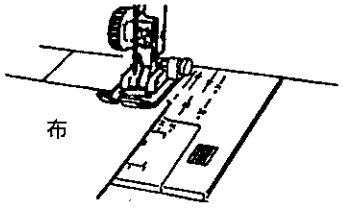
★縫いおわりと糸の切り方



返し縫いレバーを押しながら数針返し縫いをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

糸切りで糸を切ります。

★針板ガイドラインの利用

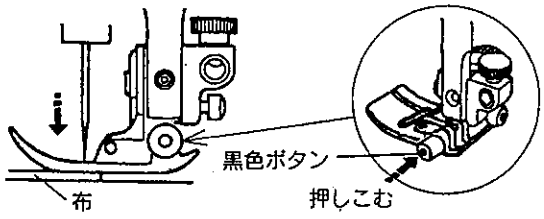


布端を角板及び針板のガイドラインに合わせて縫います。

＊数字は、針落ち中央からの距離です。

数　字	15	20	4/8	5/8	6/8
間かく（cm）	1．5	2．0	1．3	1．6	1．9

★厚手の布端の縫いはじめ



① 縫いはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。

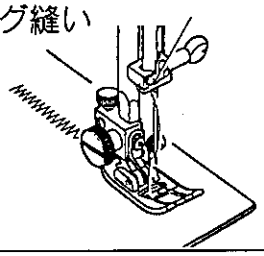
② ボタンを押したままで押え上げをさげます。

③ ボタンから手をはなし、縫いはじめます。

●ジグザグ縫いとかがり縫い

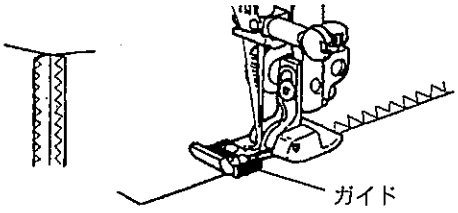
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
	1 2 3	A基本押え または C裁ち目かがり押え	ジグザグ縫い‥0.5～4 かがり縫い‥‥ 1～2	裁ち目のほつれ止めとして広く利用します。

★ジグザグ縫い



伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいに縫えます。

★ジグザグ縫い裁ち目かがり

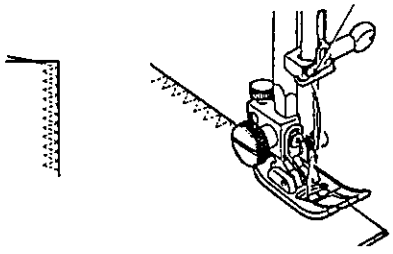


※模様は 3 を選びます。

布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

★トリコット縫い裁ち目かがり

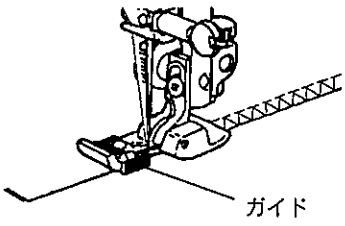
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
		A基本押え	0.5～1.5	



布端を押えの右端よりやや内側にし、織り糸を1～2本残すようにして縫います。
ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端のそり返り防止などに利用します。

★かがり縫いステッチ

セットの目安	模　様	押　え	
		A基本押え または C裁ち目かがり押え	地縫いをかねたかがり縫いで、また、裁ち目のほつれ止めとしても使えます。 ＊送りダイヤルの操作は必要ありません。

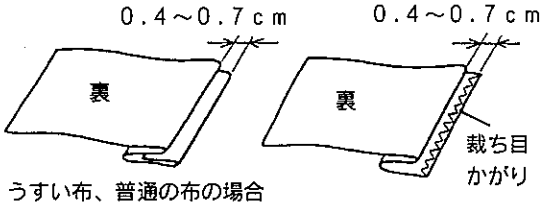


布端を裁ち目かがり押えのガイドにあてて縫います。

●くけ縫い

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
		Gくけ縫い押え	1～3	＊スカートやワンピースなどの裾のまつりが簡単にできます。

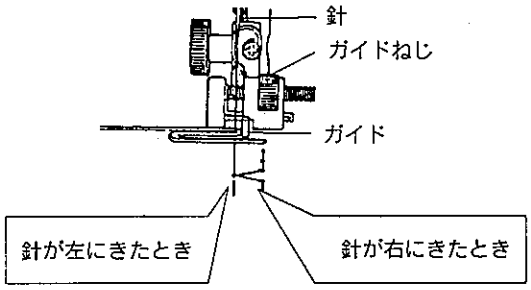
★（布の折り方）



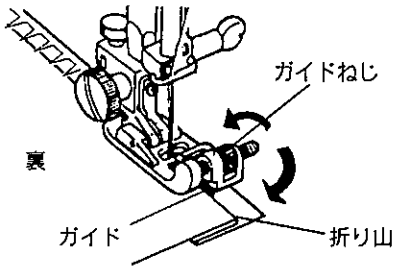
うすい布、普通の布の場合

かたい布、厚い布の場合

★（ガイドの合わせ方）



★（縫い方）



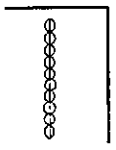
① 針が左にきたとき、わずかに折り山をさすように布を置いて押え上げをさげます。

② ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、針が折り山からはずれないように縫います。

●三重縫い

セットの目安	模　様	押　え	
		A基本押え	

★直線三重縫い



丈夫な縫い目なので、補強縫いとして、袋物やズボンの股上縫いなどに便利です。

＊布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

●直線状伸縮縫い

セットの目安	模　様	押　え	
		A基本押え	

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のある縫い目です。

＊布が前後するので縫い目がまがらないように注意して縫います。

●オートボタンホール

（ＢＨ１の場合‥縫い目巾０．５ cm　　ＢＨ２の場合‥縫い目巾０．４ cm）

（縫い目の巾）

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル
	BH1 BH2	Ｒオートボタンホール押え	０．３～１（□の範囲）

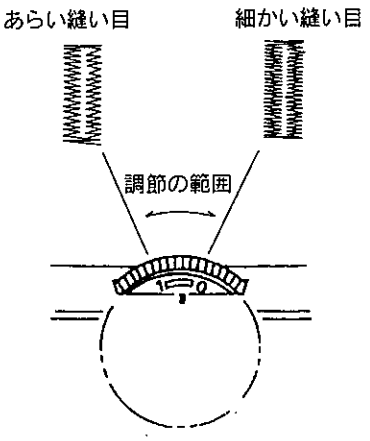
＊ボタンホールの長さは、使用するボタンをセットするだけで自動的に決まります。

＊ボタンの直径が２．５ cmまで、ボタンホールができます。

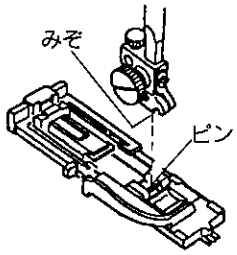
＊必ず試し縫いをして、正しく縫えることを確認しましょう。

＊伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。

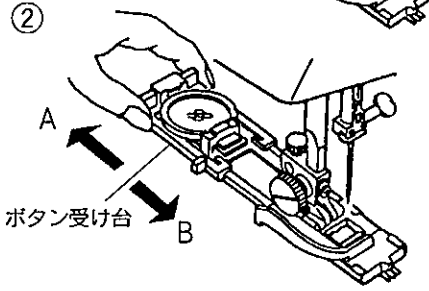
〈縫い目あらさの調節〉



①



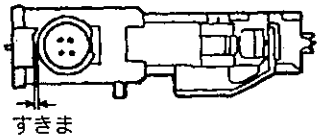
②



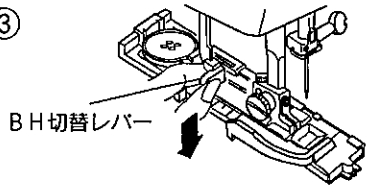
①針と押え上げをあげてＲ押えを取りつけます。

②ボタン受け台をＡ方向に引き、ボタンをのせてＢの方向に戻し、はさみます。

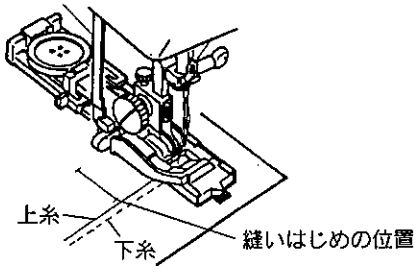
＊使用するボタンが極厚の場合は試し縫いをして確かめてください。すきまをあけて位置決めするとその分大きいボタンホールができます。



③



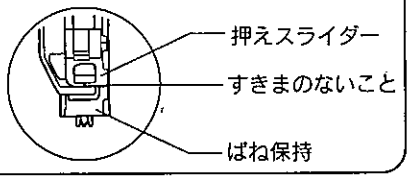
④



③ＢＨ切替レバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、縫いはじめの位置に針をさして、押え上げをさげます。

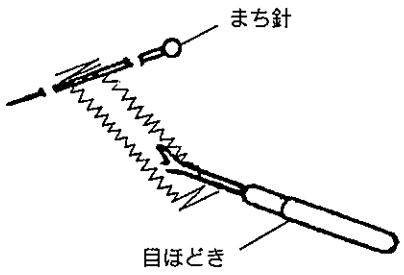
＊押えスライダーとばね保持の間にすきまがないことを確認してください。



⑤

⑤ミシンをスタートさせ、自動的にとまるまで縫います。

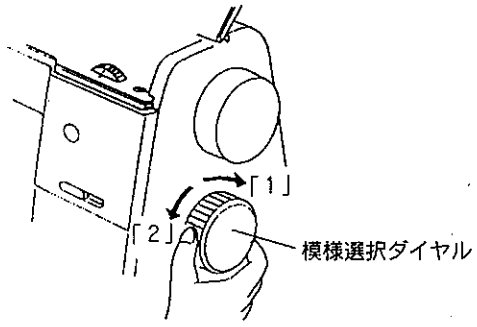
⑥
⑦



⑥押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を１０cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

⑦かんぬきの内側にまち針をさし渡して、目ほどきでかがった糸を切らないように切りひらきます。

⑧

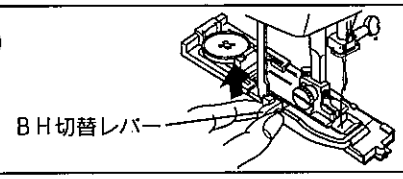


〈引き続きオートボタンホール縫いをする場合〉

⑧一度ダイヤルを「１」または、「２」方向に回して、他の模様を選んだ後、再びＢＨ模様を選びます。

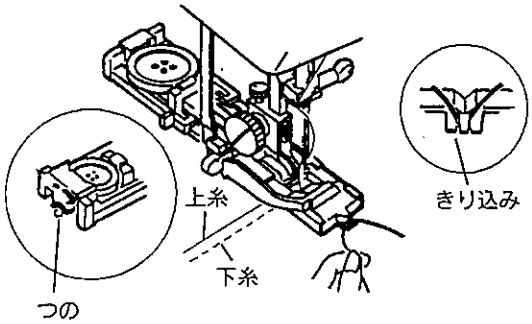
この操作をすると次のオートボタンホール縫いのセットができたことになります。

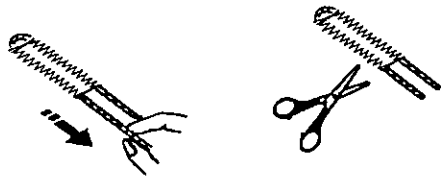
⑨



⑨ボタンホール縫いが終ったらＢＨ切替レバーを止るまでいっぱいに押しあげて戻してください。

●芯入りオートボタンホール





○芯糸を入れて縫うと丈夫なボタンホールができます。

○芯糸にはレース糸などを使用します。

①つのに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。

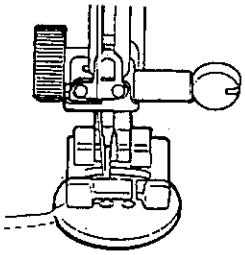
②縫いはじめの位置に針をさして押え上げをさげ、縫います。

＊縫い方はオートボタンホール縫い手順と同じです。

③芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

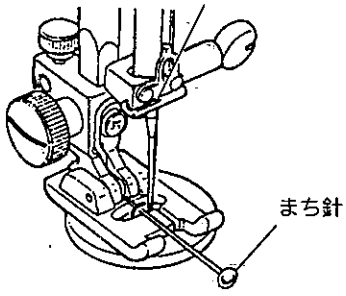
●ボタンつけ

セットの目安	模様	押え	ドロップつまみ	
	1 2 3	Fサテン押え		＊送りダイヤルの操作は必要ありません。 ＊模様１・２・３は、ボタンの穴の巾に合うものを使用してください。



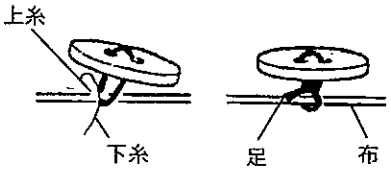
①はずみ車を手前にまわして、針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

②ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押え上げをさげます。



③押えの中央にまち針をのせ、はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。１０針くらい縫ったら、上糸・下糸を２０cmくらい残して切ります。

＊縫いはじめの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

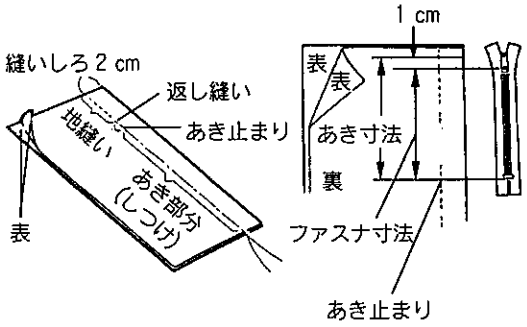


④上糸をボタンと布の間に引き出してから、上糸を強く引いて下糸をボタンと布の間に引き出し、上糸と下糸を浮かせた足の部分にそれぞれ反対方向に数回巻きつけて結びます。

⑤縫い終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

●ファスナーつけ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
		Eファスナー押え	1．5～4	＊スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。

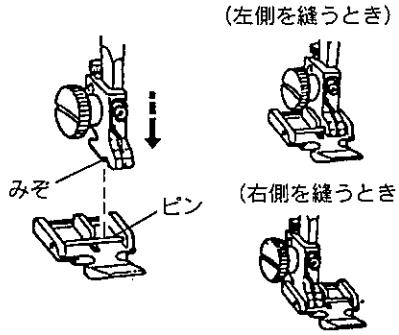


〈準備〉

①布を中表に合わせて、あき止まりまで地縫いをし数針返し縫いをします。

②あき部分は、しつけをしておきます。

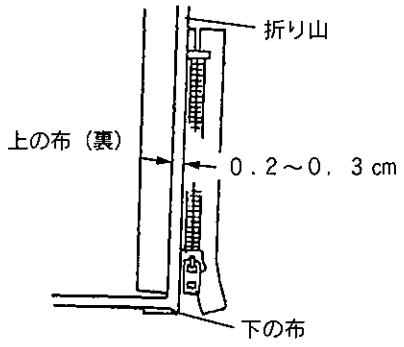
＊あき寸法はファスナー寸法に1 cmプラスした寸法です。



〈ファスナー押えのつけ方〉

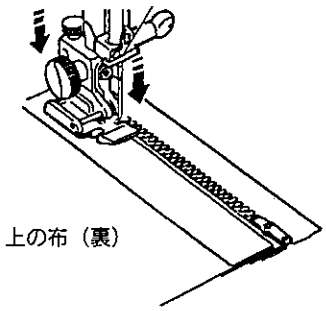
○左側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

○右側を縫うときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



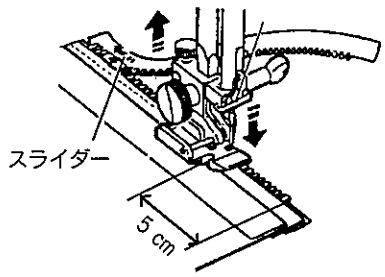
〈縫い方〉

①縫いしろをわり、下の布の縫いしろを0．2～0．3 cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

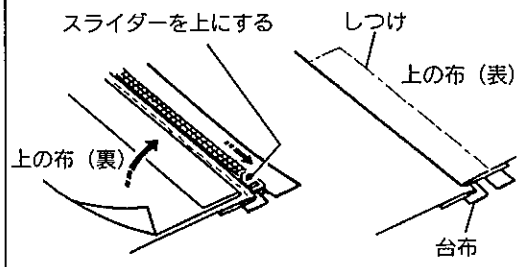


②押えホルダーをファスナー押えの右側にセットします。

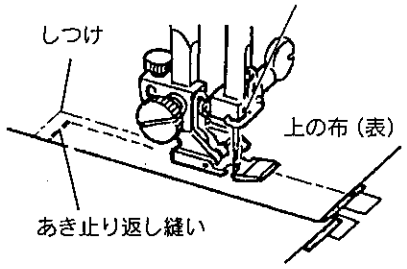
③押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりから縫います。



④ファスナーの端から５cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて端まで縫います。

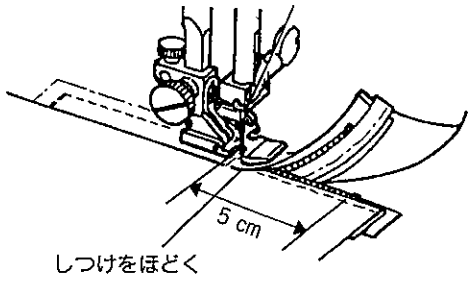


⑤スライダーを上に引きあげて、つまみの金具を上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

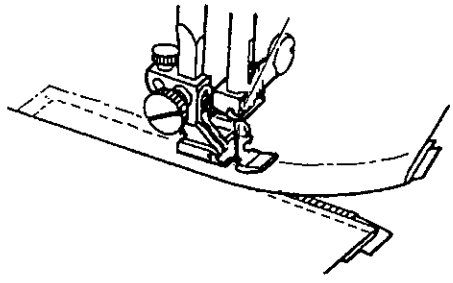


⑥押えホルダーをファスナー押えの左側にセットします。

⑦上の布のあき止まりを返し縫いして、押えの端にスライダーのきわを当てて縫います。



⑧ファスナーの上側を５cmくらい残したところでとめて、はずみ車を手前に回すか、上下停針ボタンを押し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、しつけ糸をほどきます。



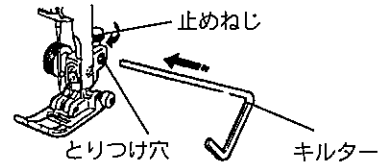
⑨スライダーを押えの向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分を縫います。

応用縫いいろいろ

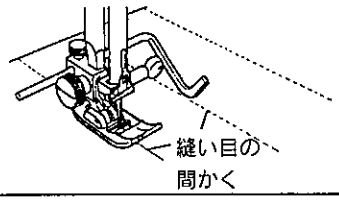
*縫いのときは、天板を開けてください。

●キルティング

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	
	または	A基本押え ＋キルター	1．5～4	縫い目を平行に縫っていく方法で、袋物などの装飾に利用します。



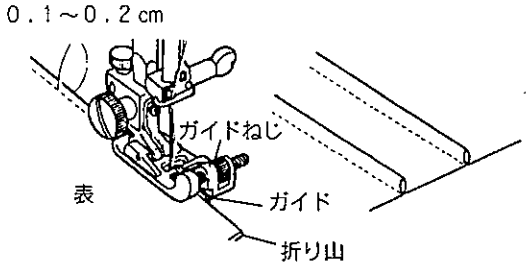
キルター止めねじをゆるめて、キルター（棒定規）を、とりつけ穴に入れ、縫い目の間かくに合わせて、止めねじをしめます。



キルターは、前に縫った縫い目をたどるのに使います。

●ピンタック

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	
	または	Gくけ縫い押え	1．5～3	ブラウスの前身頃などの装飾に利用します。

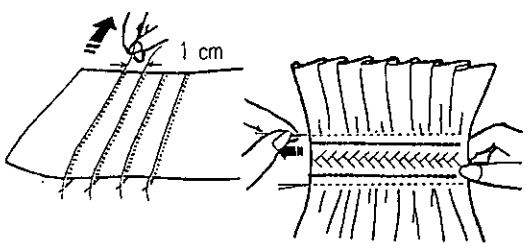


①はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0．1～0．2 cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

②ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、縫います。

●スモッキング

セットの目安	模様	押え	
	または	A基本押え	＊送りダイヤルの操作は必要ありません。



①糸調子ダイヤルを1～3にして、縫い目のあらさ0．3～0．4 cmの直線縫いを、1 cm間かくで数本縫います。

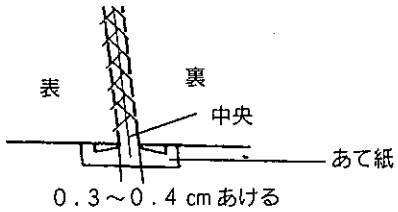
＊縫いおわったら糸調子ダイヤルを「自動」に戻します。

②上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。

③直線縫いの糸と糸の間に模様縫いをしてから、直線縫いの糸を抜きとります。

●ファゴティング

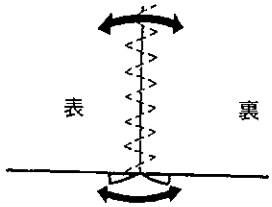
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
		A基本押え	0．5～1．5	＊模様 は送りダイヤルの操作は必要ありません。



①布端と布端の間かくを0．3～0．4 cmあけて、裏にあて紙をします。
②布の表から、間かくの中央を中心にして縫います。
③あて紙をとります。

●パッチワーク

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
	または	A基本押え	0．5～1．5	＊模様 は送りダイヤルの操作は必要ありません。



布を中表に合わせ、地縫いをして、縫いしろを割ります。
布の表から、地縫いの線を中心にして縫います。

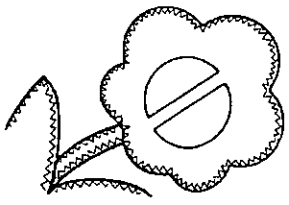
●スカラップ

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
		Fサテン押え	0．5～1	

①布を表から、布端を1 cmくらい残して縫います。
②糸を切らないように、外側の布を切り落とします。

●アップリケ

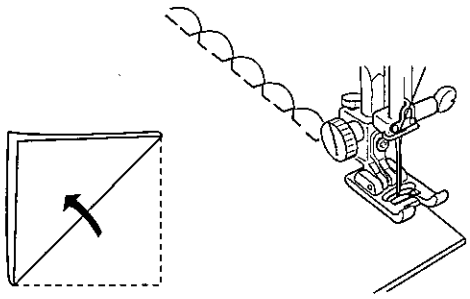
セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	
	2	Fサテン押え	0．5～1	＊アップリケ布は糊づけするか、しつけで止めます。



アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちを縫います。
＊カーブのところや方向転換をするところでは、はずみ車を手前に回すか、上下停針ボタンを押して針を下位置にしたままでかえると、きれいに仕上がります。

●シェルタック

セットの目安	模　様	押　え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	＊糸調子は、試し縫いをして、シェルタックの山がきれいに出るように調整します。
		Fサテン押え	2～3	3～9	

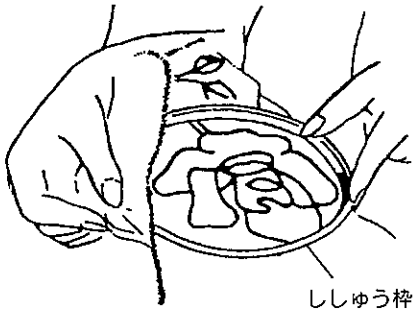


①うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。
はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにして縫います。

②布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

●ししゅう

セットの目安	模　様	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ	＊押えと押えホルダーをはずします。 ＊送りダイヤルの操作は必要ありません。 ＊糸調子ダイヤルは、布の裏側に上糸が少し出るくらいにゆるくします。
	または	0～4		



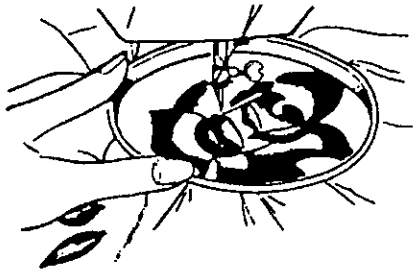
○模様は、あらかじめ布の上にえんぴつかチョークで印をつけてください。

①布をししゅう枠にピンと張ります。
*ししゅう枠は、標準付属には含まれていません。

②上糸の端を左手でつまみ、針を縫いはじめの位置にさし、押え上げをおろします。

③はずみ車を手前にまわして針をあげ、上糸を引いて、下糸を布の上に引き出します。

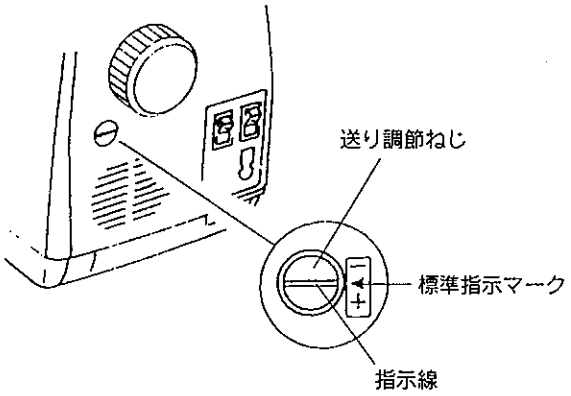
④左手の指先で上糸と下糸を押えて止め縫いをし、余分な糸を切ります。



⑤ししゅう枠を手で下に押しつけるようにし、ゆっくり縫いながら、針が布から抜けている間にししゅう枠を動かし、模様を縫います。
＊動いている針に手を近づけ過ぎて、刺さないように気をつけましょう。

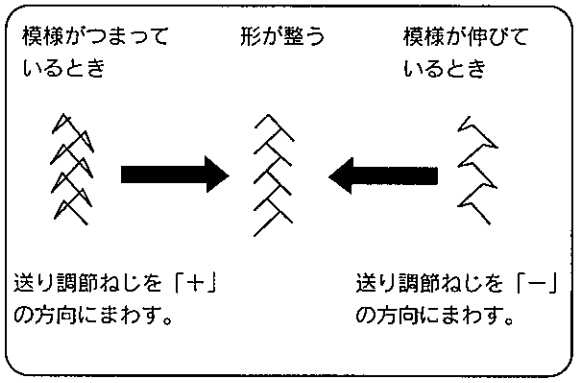
⑥縫い終わったら、ドロップつまみを元に戻します。

●スーパー模様の形の整え方



布の種類、枚数、縫いの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際に縫うときと同じ条件で試し縫いをしながら送り調節ねじでつぎのようにして調節してください。

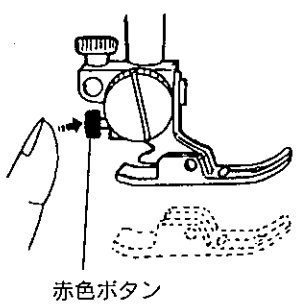
＊標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しく縫える目安の位置です。

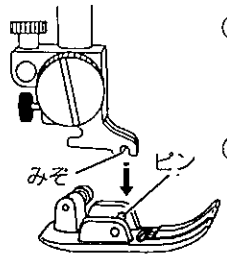


押え・針・ランプのとりかえ方

押え・針・ランプのとりかえのときには、必ず電源スイッチを「切」にしてコンセントから電源プラグを抜いてください。

●押えのとりかえ方

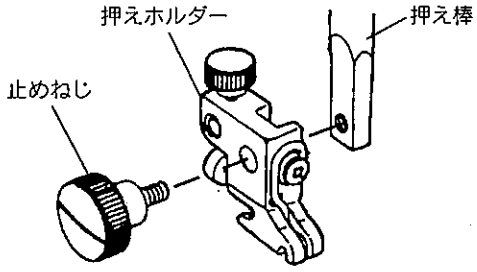




①押え上げをあげて、赤色ボタンを押して、押えをはずします。

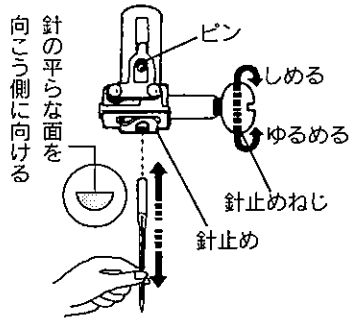
②押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

★押えホルダーのはずし方・つけ方



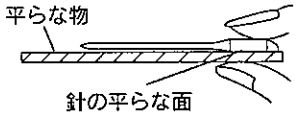
〈はずし方〉
押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを、左にまわしてはずします。
〈つけ方〉
押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ、止めねじをさしこみ、右にまわして、しっかりつけます。

●針のとりかえ方



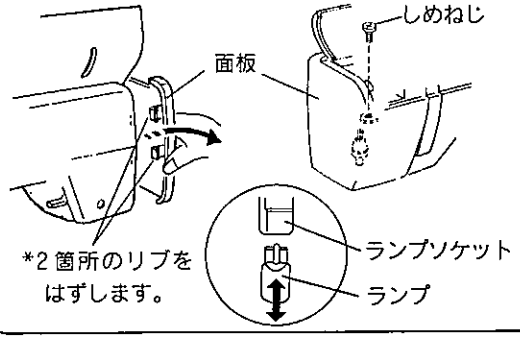
〈はずし方〉
針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。
〈つけ方〉
針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板、ガラスなど）に置いたとき、すき間が針先まで平均に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

●ランプのとりかえ方



〈はずし方〉
① 天板をあけ、しめねじをはずして面板をはずします。
② ランプソケットをはずして、ランプをそっと引き抜きます。

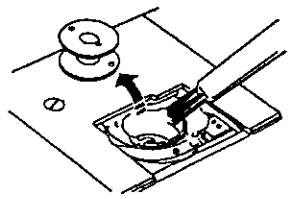
〈つけ方〉
① ランプのピンをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。
② ランプソケットをとりつけ、面板をしめねじでとりつけます。

ミシンの手入れと調整

●ミシンの手入れ

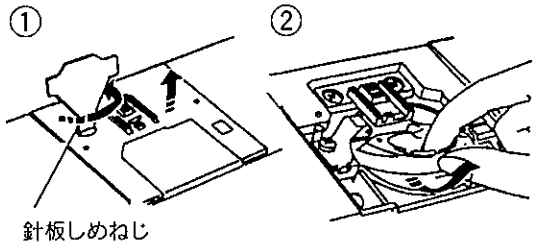
使用後は、いきとどいた手入れをして、ミシンをいつも調子よくお使いください。
＊手入れのときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
＊針と押えは、とりはずして手入れをしてください。

★かまの掃除



①角板をはずし、ボビンをとり出して糸くずやほこりを、ブラシで掃除します。

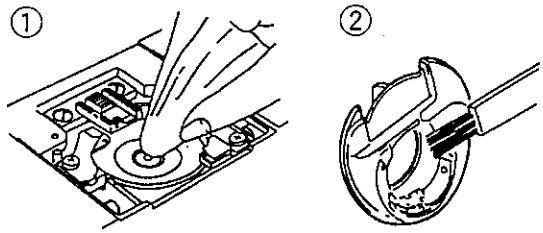
★かまの分解



①針板しめねじをはずし、針板をはずします。

②ボビンをとり出し内がまの手前を上に引きながらはずします。

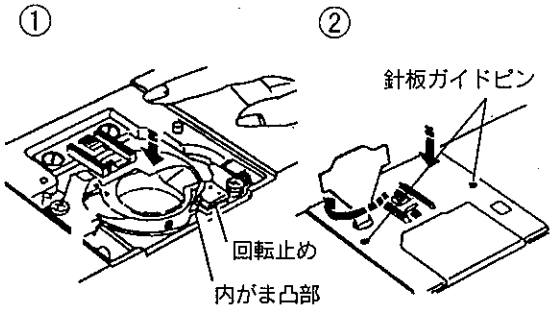
★かまと送り歯の掃除



①送り歯のごみを、ブラシで手前におとし、さらに外がまを掃除し、外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

②内がまを、ブラシで掃除し布切れで軽くふきます。

★かまの組立て



①内がまをさしこみ三角マークを合わせて、内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

②ボビンを入れ２か所の針板ガイドピンに針板の穴を合わせて、しめねじをしめます。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	1．上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみついている。	12ページ参照
	2．上糸調子が強すぎる。	8ページ参照
	3．針がまがっていたり、針先がつぶれている。	27ページ参照
	4．針のつけ方がまちがっている。	27ページ参照
	5．縫いはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。	15ページ参照
	6．縫いおわったとき、布を手前に引いている。	15ページ参照
	7．針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照
下糸が切れる。	1．下糸の通し方が、まちがっている。	11ページ参照
	2．内がまの中に、ごみがたまっている。	28ページ参照
	3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換する
針がおれる。	1．針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。	27ページ参照
	2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。	27ページ参照
	3．縫いおわったとき、布を手前に引いている。	15ページ参照
	4．布にくらべて針が細すぎる。	14ページ参照
縫い目がとぶ。	1．針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。	27ページ参照
	2．布に対して、針と糸が合っていない。	14ページ参照
	3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販SP針）を使っていない。	14ページ参照
	4．上糸の掛け方がまちがっている。	12ページ参照
	5．品質の悪い針を使用している。	針を交換する
縫い目がしわになる。	1．上糸調子が合っていない。	8ページ参照
	2．上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。	12ページ参照
	3．布にくらべて針が太すぎる	14ページ参照
	4．布にくらべて縫い目があらすぎる。	縫い目を細かくする
	＊特にうすい布を縫うときは、下側に紙をあてて縫ってください。	
布送りがうまくいかない。	1．送り歯に糸くずがたまっている。	28ページ参照
	2．縫い目が細かすぎる。	縫い目をあらくする
	3．送り歯があがっていない。	7ページ参照
縫い目に溝ができる。	1．上糸調子が弱すぎる。	8ページ参照
	2．糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。	14ページ参照
ミシンがまわらない。	1．コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。	6ページ参照
	2．かまに、糸やごみがたまっている。	28ページ参照
	3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている）	10・11ページ参照
	4．コントローラを接続したままでスタート・ストップボタンを押している。	6ページ参照
オートボタンホールがうまくいかない。	1．布に対して、縫い目のあらさが合っていない。	18ページ参照
	2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	18ページ参照
音が高い。	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。	28ページ参照
	2．送り歯に、ごみがたまっている。	28ページ参照

別売品のご紹介

1．直線押え（組）..... (NO.823801015)

●直線縫い

〈セットのめやす〉

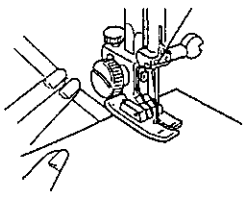
模様選択ダイヤル .....

糸調子ダイヤル ..... 自　動

送りダイヤル ..... 1.5～4

押え .....

H直線押え



《縫い方》
糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、縫いはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくり縫いはじめます。

2．三つ巻き押え（組）..... (NO.820809014)

●三つ巻き縫い

〈セットのめやす〉

模様選択ダイヤル .....

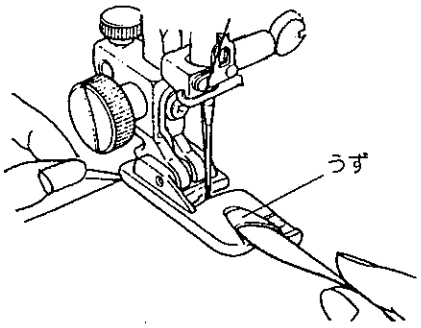
糸調子ダイヤル ..... 自　動

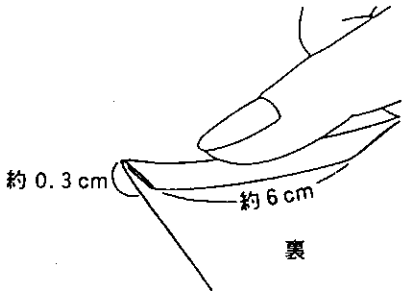
送りダイヤル ..... 1.5～4

押え .....

D三つ巻き押え

《縫い方》
①布端の長さ約６cmを、約０．３cmの巾で２度折りまげます。
②縫いはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。
③上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて１～２cm縫います。
④はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。
⑤押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながら縫います。





3．イーブンフット（組）..... (NO.214870008)

押え（組）の使用方法は、説明書が箱の中に同梱されています。

修理サービスのご案内

● お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確めの上、大切に保存して下さい。
● 無料修理保証期間内（お買い上げ日より一年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけ下さい。

修理用部品の保有期間

● 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後8年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

● 使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
① 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
② 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
③ お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
④ お買い上げ店、又は当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
⑤ 職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
● 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
● 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申し越し下さい。

蛇の目ミシン工業株式会社
東京都中央区京橋３－１－１
TEL. 0120-277039（フリーダイヤル）

（受付　月曜日～金曜日
9時～12時
13時～17時）

《仕様》

サイズ：幅404mm×奥行170mm×高さ280mm
重　量：7.2kg
別にキャリングカバー、付属品、コントローラー（又はオプション）0.25kg
縫速度：毎分700回転
使用針：家庭用　HA×1

蛇の目ミシン工業株式会社

〒104-8311 東京都中央区京橋3-1-1 TEL03-3277-2200

655-800-040